備前市事務事業評価シート

（平成22年度事業）

事業の概要

事業開始年度			昭和６１年度
総合計画 大項目	基本目標	01	安全で快適に暮らせるまちづくり
総合計画 中項目	基本施策	01	生活しやすいまちづくり
総合計画 小項目	施策	12	公共交通
事務事業名		02	市営バス運行事業

根拠法令・例規等		備前市営バス運行事業に関する条例
問合先	担当課（室）	企画課
	職・氏名	企画政策係長・田原義大
	電話	0869-64-1871
このシート作成に要した時間		2.0 時間

Plan

事業の目的

対象（誰・何に対して）	交通弱者（学生、高齢者、マイカーを持たない人）、吉永和意谷・三国地域の沿線地域住民
目的（何のために）	通学・通院・買物等のために移動する手段の確保
事業の意図する成果（どのような状態にしたいのか）	生活交通手段を確保し、市民に利用してもらう。

Do

事業の実績

細事業名	事業の説明	優先度
市営バス運行事業	和意谷線(16.0Km）と三国東西線(13.2Km）市の所有するバスで運行している。運転業務を日生運輸㈱に委託し、運行に係る維持経費は市が負担している。スクール利用者の運賃は平成26年3月末まで無料。（三国東西線の運行経費は教育委員会で費用負担）	○

目的を達成するため実施した事業

事業費等		単位	平成20年度実績		平成21年度実績		平成22年度実績	
事業費	直接事業費	千円		5,084		5,006		2,311
	必要人員 人件費		0.09人	835	0.09人	855	0.07人	686
	事業費計			5,919		5,861		2,997
決算額 財源	国県支出金	千円						
	受益者負担			177		138		84
	繰入金							
	市債							
	その他（　）							
	一般財源			5,742		5,723		2,913
受益者負担比率		%		3.0%		2.4%		2.8%

結果指標名		単位	平成20年度実績	平成21年度実績	平成22年度実績
運行系統		説明	運行系統数		
結果指標	結果指標量	系統	1	1	1
	対前年比	%	－	100.0%	100.0%
	活動コスト	円	5,919,000	5,861,000	2,997,000
	単位当たりコスト		5,919,000	5,861,000	2,997,000

事業の意図する成果とつながる成果指標を設定

事業の目的、対象、内容を考えながら妥当性を評価

事業費や受益者負担比率、単位当たりコストに留意しながら効率性を評価

事業の目的やその数値目標である成果指標に留意しながら有効性を評価

事業の成果

成果指標名	年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度目標値
年間利用者数(和意谷線)	目標値（A）	2,200	2,200	600	600
	実績値（B）	1,897	1,269	447	到達目標値
	達成率（B/A）	86.2%	57.7%	74.5%	600

成果指標設定の考え方・式や説明

サービスを利用した延べ人数。平成22年度からは、減便に伴う目標値の修正を行なっている。
平成22年度　月50人×12ヶ月＝600
平成23年度　月50人×12ヶ月＝600

Check

事務事業の評価

５段階評価（A～E）のランク基準　A：高い　B：やや高い　C：普通　D：やや低い　E：低い

妥当性の評価

市の関与の妥当性

- ☐ 市が実施するよう法令で義務づけられている
- ☐ 法令で義務づけられてないが、実施しなければ大半の市民の日常生活に支障をきたす

市の関与の必要性

- ☐ 現在市が実施しているが、実施しなくても市民の日常生活に支障をきたさない
- ☑ 事業の内容が一部の受益者に偏っている
- ☑ 対象者は限定的であるが社会的弱者等を対象としている
- ☐ 現在の市を取り巻く環境からも目的・意図する成果は妥当である

市民ニーズ

- ☐ 事業開始当初の目的から変化してきている
- ☐ 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている
- ☐ 厳しい財政状況であるが、実施する必要がある
- ☐ 市民・団体等から要望・要請が強い

妥当性評価 <A～E>: **D**

効率性の評価

コスト

- ☐ 単位当たりコストは前年度と比較して改善している
- ☐ 実施方法（派遣・委託含）を見直すことでコストを下げる余地がある
- ☐ 事務の電子化や事務改善によりコストを下げる余地がある
- ☐ コスト削減の努力はしているが、下がる余地は小さい

手段

- ☐ 受益者負担率は適正である
- ☑ 受益者負担率を見直す余地がある
- ☐ サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない
- ☑ 現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある
- ☑ 最適な手段を求めて職場内で改善・研修に努めている

効率性評価 <A～E>: **E**

有効性の評価

目的達成度

- ☐ 成果指標の設定は適切である
- ☐ 成果指標の到達目標値は達成できそうである
- ☐ 成果指標達成率は前年度と比較して向上している
- ☑ 成果指標達成率は80%未満となっている
- ☑ 現在の事業を継続しても成果指標の向上は期待できない

市民参画度

- ☐ 法定事務 ・ 内部管理事務　であり成果は求めにくい
- ☐ 事業について積極的にHPや広報等で情報提供している
- ☐ 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している

有効性評価 <A～E>: **D**

進行年度（H23年度）の改革改善内容

状況	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
			○				

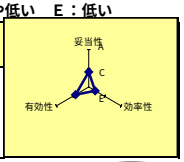
説明：当該路線の利用者は限られており、平成22年度からスクール利用者がいなくなったため、火曜日と金曜日のみ1日往復2便として減便し運行している。平成23年度は、22年度の利用状況を踏まえ、路線の再編を検討する。

総合評価

５段階評価（A～E）のランク基準　A：高い　B：やや高い　C：普通　D：やや低い　E：低い

この路線は、交通弱者にとって必要な交通手段であるが、利用対象者は限定されている状況である。平成22年度の減便による運行改革によりで経費削減を行うことができたが、更なる効率化にむけて地元協議を行いながら、改革を進めていく。

評価区分 <A～E>: **D**



Action

平成24年度の方向性・取組目標

方向性	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
					○		

取組目標：路線再編による運行改革実施